

## 第 40 回インナーゼミナール大会

### 研究計画書

<b>ゼミ名</b>	後藤ゼミ II
<b>チーム名</b>	510 研究所
<b>タイトル</b>	信じるものは救われる？
<b>テーマ群</b>	a) 情報・理論 c) 公共経済
<b>メンバー</b>	◎畑 圭一郎、池田 由里亜、猪尾 一真、植原 裕二、大崎 心、小原 桜子 菅野 友里恵、木澤 愛、笹部 祥子、佐藤 あゆみ、志村 夏実、杉浦 有 中田 千秋、丹羽 成美、久村 勇太、兵藤 太一、増田 貴信、山本 実佳
<b>研究計画内容</b>	<p>皆さんは日常の中で知らないうちに信じこんでしまっていることってありませんか？例えば「カレーは一日置くとおいしくなる」と聞きますが疑問を感じたことは無いですか？一日置くとおいしくなることに根拠はあるのでしょうか？まず私たちはカレーの例を用いて科学的根拠が存在するのかあまり知られていないものを証明する方法を紹介しながら答えを出します。</p> <p>また最近 CM でよく見かけるサプリや健康食品も本当に効果があるのでしょうか？改めて本当に効果がありますか？と聞かれると答えられないと思います。つまり私たちは普段の生活の中で根拠もないのに信じこむことによって消費しているものが少なからずあるのです。加えて私たちは腰が痛くなって我慢できなくなると、接骨院で専門のスタッフに診てもらいマッサージを受けます。そしてマッサージを受けると腰が楽になると信じています。もし接骨院の専門のスタッフに診てもらうこと自体に効果がない、と科学的に証明されたら接骨院ではなくマッサージ店で良いわけですよね。</p> <p>私たちの中には効果が無いことを証明されても信じて消費し続ける人もいます。つまり私たち消費者はそのような科学的根拠を知らない商品やサービスに対してもお金を払っているのです。そこで今回の研究ではそれらを分別し考察をしていきます。サプリや健康食品は消費者が自分のお金のみを使って購入しますが、接骨院の診察料の中には健康保険（みんなが支払って成り立っているお金）が使われています。みんなのお金を効果がないものに使い続けることは、正しいことなのでしょうか？また効果がないことを知らないまま生活していいのでしょうか？私たちはこのような疑問に対する答えをはっきりさせ皆さんに説明します。</p>